一般シンポジウム　SO1

第 14 回若手が拓く新しい薬剤学
～分子レベルから創製する新しい原薬・製剤：分子製剤学の最前線～
14th Frontier Pharmaceutics to Be Explored by Young Scientists
~Novel Active Pharmaceutical Ingredients and Formulations Designed at the Molecular-Level：Frontiers in Molecular Pharmaceutics~

東 顕二郎 [1], 松永 直哉 [2]
[1]千葉大院薬 , [2]九大院薬

新薬開発の対象が低分子から高分子まで広がりを見せ、錠剤や注射剤など様々な剤形の製剤が開発されている。しかし、いずれの医薬品開発においても、製剤的工夫なしに製品化できるケースは限られる。さらに､スイッチ OTC やジェネリック医薬品等において更に高品質の医薬品を創製するためにも、製剤技術の重要性は今後益々高まっていくと考えられる。近年、医薬品原薬・製剤を分子・ナノレベルから設計・評価する“分子製剤学”が注目されている。分子製剤学の技術を用いることで、高い機能性を付与した製剤が設計できる。さらに、その製剤を精密に品質評価・保証することで、安全性の高い製剤を市場に提供できる。現在、製薬企業では、分子製剤学技術の応用化研究が精力的に進められている。本シンポジウムでは，分子製剤学の視点を基に基礎・応用研究に携わっている気鋭の若手研究者に，最新の研究成果をご講演頂く。初めに、経口製剤の話題として、谷田先生から共結晶について、門田先生から結晶化の分子シミュレーションについて、杉原先生から過飽和製剤についてお話頂く。次に、点眼製剤の話題として庵原先生からヒドロゲルについて、注射剤の話題として田中先生から DDS キャリアーについてお話を頂く。本シンポジウムを通して「分子製剤学の最前線」を発信し，活発な議論を通して次世代薬学への展開を探りたい。